

令和2年度 学校経営方針

1、学校教育目標

- ・自主性・自律性・国際性

(自ら考え、主体的に判断し行動できる力、他人を思いやる心や感動する心、国際社会に貢献する志を培う)

2、ドバイ日本人学校の求める姿

【めざす児童生徒像】・・・『自他の良さを認め、互いにつながり合いながら、世界に羽ばたこうとする児童生徒』

- ・かしこい子・・・授業を大切にし、学びを深めることによって自分のよさや友のよさを認め、高め合う子
- ・やさしい子・・・友とのつながりを大切にし、友を思いやる気持ちにあふれている子
- ・たくましい子・・・自ら心身を鍛えるとともに、みんなと協力し、周囲をよりよい状態に変えようとする子
- ・国際人をめざす子・・・世界に羽ばたき、地球全体の幸福を考えようとする子

【めざす学校像】

- ・ドバイ及びUAE北部地域に滞在する日本国籍を有する子女に対し、UAEの文化、国情等を理解し将来を通じて友好の実を上げるとともに、帰国後ただちに日本の教育制度を継承して受けることができる学校
- ・「学校をつくるということは、わたしたちの手で煉瓦を積み、わたしたちの手で一枚一枚の板に釘を打ち付けていくことなのです。私たちがかわいい子どものために……。」という建学当時の人々の思いを脈々と受け継ぐ学校
- ・人と人とのつながり合いを大切にする雰囲気の中で、子どもも教職員もひとつになり、知・徳・体のバランスのとれた成長を目指して一生懸命努力し、その過程にある価値や成果を認め合い高め合える学校

【めざす教師像】

- ・教員としての使命を自覚し、全力で職務を遂行していく教師
- ・学校を支える一員として同僚性、チーム力を発揮し、教育課題を追究していく教師
- ・常に子どもの成長を考え、子どものために指導を工夫し、成長する喜びを分かち合える教師
- ・個を理解し、保護者や子どもの立場を考えて親身に対応することができる教師

3、教育方針

授業を教育活動の基本に据え、海外における日本人学校としての特性を活かした創意工夫あふれる教育活動を展開することにより、保護者・日本人会・現地社会の信頼に応える安全で安心して学べる学校づくりを推進する。

4、令和2年度の重点目標

- (1) 安全・安心で保護者や日本人社会から信頼される教育活動を推進し、学校評価を改善の拠り所として教育の質の向上を図る。
- (2) 「授業」は学校の命であることを認識し、「分かる授業」「楽しい授業」を実現するために日々の授業改善を図る。英語学習についてはプロジェクトチームでの議論を中心に抜本的な改善を図る。
- (3) 朝読書の時間やボランティアによる読み聞かせ活動等により、読書教育を充実させる。
- (4) 全教育活動を通して、子どもたちが「つながり合い、かかわり合い、みがき合う」場を設定する。
- (5) 児童生徒理解に努め、「あいさつ・じかん・くつならべ」を奨励し、基本的な生活習慣の定着、健康教育の

充実を図る。

- (6) 中学受験、高校受験をはじめ進路保証を強化していく。そのために、日常の進路指導とともに適切かつ適宜に進路情報を提供していく。
- (7) イスラム文化圏にある特色を生かし、交流活動や現地理解を通して国際理解の推進を図る。
- (8) 学校情報の発信、学校外部の教育資源の活用を盛んにし、「開かれた学校づくり」をより推進する。
- (9) 学校創立40周年を契機とした教育環境の整備に努める。
- (10) 事務室の組織的・効率的な運営
- (11) 情報の共有化(文書管理, 会議の持ち方の工夫等)
- (12) 効率的な執務

5、学校教育活動の充実に向けて

- (1) 新学習指導要領の導入に伴い「主体的・対話的で深い学び」を展開し、特別の教科道徳、小学部の外国語活動、教科英語の工夫を図る。特に英語教育に関してはプロジェクトチームからの提言を柱に抜本的な改善を図る。また、学校教育の中心は何といっても子どもたちの学力の向上が第一と考える。そのため教員自らが研究授業を中心に全教員で研修及び共有する場を設定し授業力の向上を目指す。
- (2) 基本的な生活習慣確立のため「あいさつ・じかん・くつならべ」を奨励しながら、確かな学力の向上のため日々の授業のより一層の充実に努めていく。
- (3) 国際理解教育充実のため、現地校交流等を大切にす。中学部の希望者を募って行っていたホームステイプログラムの今年度実施は未定。
- (4) アラビア語は、各学年を複数グループに分け、週1.5時間程度実施し、児童生徒のアラビア語に対する会話力やイスラム文化についても理解を深めさせる。また、校内掲示を工夫し、アラビア語に触れる機会を多く持てるようにする。
- (5) これまでの図書ボランティアに加え、「学校サポーター」を多く取り入れる。「図書室サポーター」「読み聞かせサポーター」「個別支援」「環境整備サポーター」等が考えられる。
- (6) お便りの発行、ホームページへの情報アップなど、学校からの情報発信を盛んにし、「開かれた学校づくり」を推進する。
- (7) 派遣教員を増員していただいたことにより、「校務主任」を新設する。校務主任は、施設・設備の整備や情報機器の扱い等を事務職員と連携しながら専門的に取り扱う職掌の中心となる。
- (8) 特別支援の専門的な経験を持つ派遣教員を配置していただいたことにより、より専門的な見地から個別支援の在り方を検討し、実践する。
- (9) 学校創立40周年の年であり、開校記念日の4月15日には、40年の歴史をふり返り、40年の歴史の重みを感じさせ、今後の展望を考えさせる「全校講話」を実施する。よく吟味された「記念事業」を行うとともに「記念式典」を開催する。職員は、事業部と式典部に分かれ、それぞれ意義のある事業、式典になるように工夫し実施する。またこの10年間の記録をまとめ保存する。
- (10) 新職員が職務の遂行に支障を来すことのないように、情報の共有と文書等の整理・保存を進める。全職員が学校の進むべき方向を理解しやすいように、学校運営理事会での協議事項のうち必要なものは職員で共有する。
- (11) 職員朝会后、朝の清掃後の8:15より、校長、教頭、教務主任、校務主任、事務長によるミーティングを毎朝実施することで、それぞれがもつ懸案を共有し、チームで解決できるようにする。
- (12) 効率的に職務を遂行し、職員がそれぞれの健康に留意しながら仕事を進められる職場にする。